東雲

第八号　　平成10年（1998）9月

南部広域行政組合

島尻教育研究所

目　　次

○　地域の文化と新しい学校づくり　　所長　比　嘉　恒　雄……1

○　先輩教師に学ぶ　　島尻地区中学校長会会長
南風原中学校長　座　波　朝　春……3

○　修了者及び次期入所予定者、指導講師一覧……4

○　研修を終えて　　島尻教育研究所　教育研究員……5

○　教育講演　「目標をもって頑張ればできる」
元ＷＢＡ世界Ｊ・ウェルター級チャンピオン
平　仲　信　明……14

地域の文化と新しい学校づくり

島尻教育研究所長　比　嘉　恒　雄

新しい学校づくりや地域づくりにとって先見性と創造性の持つ意義は大きい。これらのことを学校の隅々にまで浸透させ、活かすには、学校の経営哲学が重要なポイントになる。

本稿では、地域の文化を学校づくりに繋げた経験を基にして、文章を綴ってみたい。さて、学校新設の際、地域の方々の英知と豊かな創造性は、学校の将来像をデザインをする時に、大きな礎になるものである。それと相俟って、その英知と創造性をより豊かにより強固にするには、今日まで多くの人々が育んできた地域の歴史、風土、伝統文化等を学校創設の根拠にしながら、学校を象徴させるものの中に意図的に昇華させる工夫と努力を大切にしなければならない。

そこで、南風原町の歴史の中で、数少い教育の歩みを開校記念運動会にとりいれて21世紀に向けて、歴史の新しい発見と新たな感動を呼びおこし、地域の人々や生徒が持っている根強いエネルギーが新たな動きにつながることを切望して炬火リレーの構想をした。炬火リレーの流れは、文化活動の発祥、継承、発展の考えに則って演出した。

沖縄において、公的な学校の教育制度が始まったのは、18世紀後半のことであった。南風原町では、明治元年に、手習所（現在の宮平公民館の一角に）が設置されたが、数人の子弟の教育から始められた手習所の教育の精神は町の教育の中に、現在も生きづいていると思う。

その、演出の一部を紹介をしたい。運動会の日に誕生した女生徒が、前日原始的な方法で、手習所で採火し、当日は、それを炬火にして、南星中誕生の女神となって、第１走者となり、地域の教育にかかわり、支えてきたＰＴＡ役員がそれをうけとり、地域の教育を託された学校の企画委員が第３走者を務めた。今後町を支え、発展の原動力となるアンカー、生徒会役員に大きな夢を託しながら炬火を授けた。その生命の火を消すことなく、南星中の発展と、その行く末を見守る決意をこめて生徒会長が点火をした。点火された赤い炎の中に、地域の人々の誇りと土着の力強さに感動したことは、私の頭から一生消えないだろう。

教育行政の地方分権を併行して、今、教育に強く求められているのは、自主、主体的な創造性に富んだ教育活動である。このことは各々の学校で、特色ある教育課程の編成、実施なくして達成できるものではない。そのための一つの選択肢として、地域の歴史や文化を掘りおこしたり、新しい価値づけをしながら教育課程づくりの議論を豊かにしなければならないと思う。本稿が、このような話題づくりの一つになれば幸いに思う。

平成10年９月

先輩教師に学ぶ

島尻地区中学校長会会長
南風原町立南風原中学校長　座　波　朝　春

今後の教育改革を進めていくにあたって、教師に求められているのは、教師の資質・能力の向上であるといわれている。それは豊かな人間性（深い人間愛、教育的愛情、鋭敏な感性、広い教養、主体性の確立、自ら学び続ける心）、深い専門性（教科に対する専門的知識・技能、児童・生徒との心の触れ合い、良い授業をつくりだす実践力と指導力）、強い使命感（教育の果たすべき役割の自覚、組織人としての自覚……チームプレー、未来社会への貢献）を身につけ、より向上する努力をすることである。そのために、主体的に、あるいは義務研として多種多様の研修に参加し、教師としての資質・能力の向上に努めているのである。また、法的にもその研修が保証されている。

しかし、教師が大きく成長することに影響を与えている要素が他にあることを忘れてはならない。

私は昭和39年４月に南風原中学校に採用され、小学校１校、中学校７校（離島２校）、教育行政機関２機関に勤務して35年間になろうとしている。その間、何度となく挫折感を味わい、最初の頃は教師をやめようかとまで考えたこともあった。今振り返ってみると、今日までよく努めてこられたなとの思いがある。それまでには数多くの先輩の指導助言、先輩の物の考え方や行動等に学ぶことが多々あった。私の恩師でもある二人の先生には教職についてからもよく叱咤激励をうけ、特にA先生には涙が出るほど叱責されたこともあった。B先生には教師としての心構えについて指導助言を受けたものです。また、先輩教師であるC先生には、教科等に関する専門的な知識・技能の習得に大きく影響を受けたものと考えている。学習内容、方法等、よくわかる授業実践についてよく指導助言をしてくれました。D先生には深い人間愛、教育的愛情、主体性の確立等について学ぶことができた。私と同じ教科ではなかったが、この先生と話をする中で、私の教育に対する考え方や方法、人としての生き方について、いかに貧しいものであるかに気づき、恥じ入ることが多かった。その他にも多くの先輩諸氏から数々のことを学ぶことができたが、ここでは紙数の都合により省くことにした。

今、私は校長として、学校経営を進めていくうえで、これまで研修したことや先輩から学んだことに基づく事柄がその中核になっている。今後とも多くの先生方との出会いを大切にしてその先生方の良い面を学びとり、私の成長に役立てたいと考えている。

平成10年９月

平成10年度　前期　教育研究修了者及びテーマ一覧

期	No.	氏　名	勤務校	教科・領域	研究テーマ
前期	1	宮城　しのぶ	糸満市立 潮平小学校教諭	社会科	社会科を核とした国際理解教育の工夫 — 体験的学習を通して —
	2	仲里　孝	糸満市立 光洋小学校教諭	社会科	一人ひとりを生かす学習指導の工夫 —「くらしのなかの水（４年）」の指導を通して —
	3	徳元　ひろみ	具志頭村立 具志頭小学校教諭	国語科	主体的な学び手が育つ授業の創造にむけて —４年説明的文章教材「キョウリュウをさぐる」の指導を通して—
	4	比嘉　史江	豊見城村立 豊見城小学校教諭	図画工作科	創造活動に意欲的に取り組む授業の工夫 — 中学年における「教材をもとにした造形活動」の学習を通して —
	5	糸数　昌子	南風原町立 津嘉山小学校教諭	図画工作科	一人ひとりが表現の喜びを味わうことのできる学習指導の工夫 — 自由に発想をめぐらす絵の指導を通して —
	6	島袋　健	南風原町立 翔南小学校教諭	学級経営	その子らしさを生かす学級経営をめざして — 構成的グループエンカウンターを通して —
	7	友寄　弥栄子	玉城村立 船越小学校教諭	特別活動	自発的、自治的な実践力を育てる児童会活動 — 異学年交流を通して —

平成10年度　指導講師及び担当教科

指導講師	教科・領域	所属等	指導講師	教科・領域	所属等
宮城　末義	社会科	県教育庁 島尻教育事務所指導主事	金城　恵子	幼稚園教育	東風平町立 白川幼稚園教頭
大城　早智子	国語科	糸満市立 喜屋武小学校教頭	里　秋美	幼稚園教育	糸満市立 糸満幼稚園教頭
高良　清吉	特別活動	豊見城村立 とよみ小学校校長	前城　文彦	体育科	大里村立 大里北小学校校長
荷川取　幸代	学級経営	糸満市立 糸満小学校教諭	安次嶺　敏雄	教育相談	糸満市立 潮平小学校教頭
我如古　稔	図工科	具志頭村立 具志頭小学校校長	大城　徹	国語科	県教育庁 島尻教育事務所指導主事
島袋　健次	学校経営	南風原町立 翔南小学校校長	比嘉　良雄	学級経営	玉城村立 百名小学校教諭
	特別活動	高嶺中学校校長			

平成10年度　後期　入所予定者及びテーマ一覧

期	No.	氏　名	勤務校	教科・領域	研究テーマ
後期	1	玉城　紀代子	糸満市立 真壁幼稚園教諭	幼稚園教育	幼児が主体的意欲的に生活を展開していくようになるには、園行事をどのように捉え実践していけばよいか。
	2	玉城　久子	知念村立 知念幼稚園教諭	幼稚園教育	心豊かな思いやりのある子を育てる工夫 —進んで人とかかわることを喜ぶ幼児を育てるにはどうしたらよいか—
	3	仲村　秀也	糸満市立 米須小学校教諭	体育科	器械運動における子供の良さや可能性を生かすための学習指導と評価の工夫　—学習過程における教師の支援を中心に—
	4	新垣　弘	糸満市立 糸満南小学校教諭	教育相談	カウンセリングがめざす基本姿勢とその実践
	5	平安山　良康	糸満市立 真壁小学校教諭	学校経営	自己教育力の育成を図る学校経営
	6	金城　千秋	知念村立 光洋小学校教諭	学級経営	望ましい人間関係を育てる学級経営 — 父母との連携を通して —
	7	永山　公子	玉城村立 船越小学校教諭	特別活動	主体的に活動する児童を育てる学級活動 — 話し合い活動を通して —
	8	玉城　幸子	南風原町立 津嘉山小学校教諭	教育相談	カウンセリングマインドを生かした授業の工夫 — 人間関係を大切にした一人ひとりを生かす授業の工夫を通して —
	9	知花　綾子	知念村立 知念中学校教諭	国語科	生徒が意欲を持って授業に参加するための授業の形態・過程の工夫

日光・鬼怒川道中（うらら編）

—県外研修—

糸満市立潮平小学校教諭　宮　城　しのぶ

入所式がすみ、文献をよみふけっていた我々のところに県外研修の話がでた。

行き先について大いに盛り上がり、旅行後のすさまじい日々なんてのは想像もしなかった。７名もいると、行き先ひとつ決めるのにも大変だ。桜は終わっているし、深緑には早い…。検討の結果、日光探勝に落ち着いた。東京発着の２泊３日。東武浅草線で鬼怒川温泉へ行き、ジャンボタクシーを利用する手作り旅行だ。

４月22日（水）　五十里ダム→川治ダム→竜王峡→鬼怒川温泉

飛行機は８：20発なので、７：20集合とする。時間どおり集まったのは３名。添乗員がわりのMは、果たして無事帰ってこれるか不安になる。

出発ぎりぎりに最後の１名が到着し那覇を発つ。東京でぞろぞろ乗り物をかえて、午後には鬼怒川温泉駅に着く。

五十里ダムでは、桜が残っていて、風にはらはらと散っている。白い花びらを手にうけ、童心にかえって大はしゃぎする。解放感いっぱいだ。

竜王峡では、ンスナバーのような水芭蕉（命名ブタバショウ）やツツジなどの植物観察をしたり、サンショウウオを見つけたりと自然に親しみながらのハイキングを楽しんだ。

４月23日（木）　日光江戸村→杉並木→中禅時湖→日光植物園→霧降の滝

日光江戸村で江戸時代の町民や忍者の生活に触れ、歴史の学習をする。華厳の滝では、15℃の冷気に震え、修業僧の気分になる。（さすがに、滝に打たれる者はいなかったが。）

樹齢数百年という杉並木でも江戸時代を偲び、静寂さとさわやかさを味わう。

４月24日（金）　日光山→浅草

朝から雨。雨の中のお寺巡りも風情があっていいものだ。東照宮では、中学校の修学旅行団と一緒だったが、拝観スピードの違いから混雑もなく建築物をみることができた。

午後には、東武日光駅を出発して水曜日と逆コースで機上の人となる。

一人の迷子もでず、全員が無事沖縄にもどれたことに、影の添乗員は自分の役割が終わったことを確信した。

歴史と自然に触れた２泊３日。

夜の街へ繰り出すことがなく、男性陣は物足りなかったかもしれないが、白い桜吹雪に、山肌の残雪に、独特な建造物に、かわいい花々に、どっしりとした杉に、感激と歓声があふれた充実した旅であった。一人ひとりの個性が表れ、同期としての結束もできた。

（ブタバショウの陰にサンショウウオ発見）

それからの研究生活は苦しいものであったが、研究員が互いに支え合って逍遥歌２番を実践してきた。また、学校現場ではできないことをたくさん経験できたことは、有意義であった。

このような研修の機会を与えてくださった関係者の方々をはじめ、ご指導くださった諸先生方に感謝申し上げます。

検証授業について

糸満市立光洋小学校教諭　仲里　孝

振り返ると６カ月前、初めての長期研修への期待と不安を胸に入所式に参加しました。学校では卒業式、修了式を終え新学期に備え慌ただしく、後ろ髪を引かれながら半年の研修期間が与えられたことにとても、嬉しく思いました。

研究所では、各自の研究テーマをもとに関係する本や報告書等を読んだりしながら机上の研究を進めていきました。この中で研究員にとって一番の山場は、検証授業ではなかったかと思います。糸満主任指導主事から「検証授業はテーマとの関係をはっきりさせ、仮説を検証することに目的がある。」と教えられました。これを絶えず念頭に置いて検証授業まで実践していきました。

６月17日、私の「くらしの中の水」の授業を初めに、７月９日の島袋さんの「構成的グループエンカウンター」の授業を最後に全員が無事検証授業を終えました。検証授業にたどり着くまで苦しい時もあったのですが、お互いに励まし合いながら乗り越えることができました。

検証授業に至るまで

検証授業を行う前に、全員で指導案検討会を行いました。その中で私が適切であると思った自分の指導案も、研究員からの様々な意見や質問を受けることによって、検証授業を行う際、明確でない点が分かり、実際の授業でも大いに役立ちました。そのことは、私が今まで持っていた考えを正すとともに、研究を厳しく見つめ直すよい機会でありました。

検証授業の実践

まず、今回は研究員全員が小学校ですので、お互いに検証授業を見せ合うことにより、指導方法や教材の作成及び使い方等どれも、とても勉強になり学校現場で実践に生かせるということです。次に、検証授業の際、楽しみにしていたことは研究員全員の学校が見れることです。創立５年～100年以上経っているものまであり、校舎に入ると歴史を感じさせます。さらに、地域の違う子供たちとの出会いはとても新鮮で楽しいものでした。校風は違っても共通していえることは、どの子も生き生きとしていて、活動することに喜びを感じているということでした。教師が児童一人一ひとりの実態を捉え、意欲をかき立てるような教材作りの大切さを身を持って感じました。

また、検証授業の際、研究員は「児童の活動の観察」「抽出児童の観察」「教師の活動の観察」という視点を持って参観するので、回数を重ねる度に授業者の研究内容を検討していく目が育ちました。検証授業後の反省会では、様々な角度から厳しい意見や助言等もありました。これは、教師として向上するための糧になると思います。

最後に、私たち研究員を温かく、時には厳しく指導・助言を下さった比嘉所長、糸満主任指導主事、賀数指導主事、指導講師の先生方、そして、快く研修に送り出して下さった校長先生をはじめ職員の皆様に感謝するとともに、このような機会を与えて下さった関係市町村の方々、南部振興会の皆様にお礼申し上げます。

「いちゃりば　ちょーでー」

― 所外研修から学んだこと ―

具志頭村立具志頭小学校教諭　　徳　元　ひろみ

思えば７期生の報告会の日、午前中６年生のお別れ遠足で、玻名城の海岸で思いっきり遊んだ後帰校。あわてて支度をしていると、同僚に「いねむりしないで、ちゃんと聞いてこいよ。」と、励まされ南部総合福祉センターへ車をとばしたのが、つい先日のような気がします。報告会の会場には、島尻教育事務所所長をはじめ、各市町村教育関係者等が列席なさっており、厳粛な雰囲気でした。そんな中に、自分のネームプレートがテーブルの上にしっかりとありました。目を疑いながら、場違いの所に来てしまったと思った日が、研修所への第一歩になったのです。

今、所報の原稿を書いているのも本当に夢のようです。何かまとまった研究ができそうで、なかなか思うように事が進まなかったというのが、本音でしょうね。研究所では、各自のテーマの研究だけでなく、所長講話をはじめ多くの研修がありました。その中から、所外研修で学んだ事を紹介します。

ＯＣＣ本社　始めての所外研修がコンピュータなんて、気が重く休んでしまいたい気持ちでした。最新のコンピュータを前にどきどきしたのはつかの間、こんな初心者の私にもよくわかるように説明してくださった。ハイパーキューブを使っての実技指導、インターネットの操作、学習ソフトの説明、ロータスを使っての表計算等、時間を忘れて夢中にコンピュータに向き合った研修でした。「さわることから慣れるんですよ。」と励まされたのは、私だけだったのかしら……

沖縄国際センター　検証授業でお友達になったキューバのベルキスさんに会えるのを楽しみにセンターに向かった。建物は沖縄独特のたたづまいでゆったりとしていた。訪問する人たちを優しく迎え入れてくれる。「いちゃりば　ちょーでー」の合い言葉が、実によく似合う。アセアン諸国から多くの研究生が来て、コンピュータをはじめ、マスメディア、医療、農業、工業等、各分野での研修をしているのに驚いた。以前、訪問した衛生環境研究所にも外国の研修生がいたのを思い出した。進んだ日本の技術に改めて敬服した。

児童相談所　児童虐待の事に関して熱心に話されていた玉城さん。養育能力のない親だとわかると引き取りに来ても子供は、渡さないと言いきった事が心にジンときた。「野外活動も好きなんですよ。」と言いながら、裏の畑で子供達が汗を流しながら作業しているのを紹介しながら、声かけしていた優しい玉城さん。親はなくとも子は育つと思いながらも、世の親の無責任さをまざまざと見せつけられた。折しも、『源河川で、児童相談所の職員とこども達、実習生らが遭難』と、ニュースで報じていた。先日、訪問したばかりだったので人ごととも思えず、安否を気遣いつつ無事を祈った。道に迷って山で一夜を過ごしたとのこと。幸いにも、けがもなく救助されたそうで陰ながら、ご苦労様と労をねぎらった。

その他、島尻養護学校、沖縄盲学校、刑務所、少年院、女子学園、海水淡水化センター、浄水場、公文書館、県議会、家庭裁判所、県警察本部等を視察研修させてもらいました。どこの訪問先でも、担当の方が快く迎えて下さり、丁寧に説明してくださいました。学校現場では、なかなか出会うことのない方々と接し、社会という広い視野から教育を見つめ直す良い機会になりました。

夏の終わりをつげる「ひぐらし」が鳴いているのが、何かもの悲しく聞こえるのは、私達８期生と、研究所生活が、残り少なくなってきたからなんでしょうか。あっという間の６ケ月間でしたが、まさしく、「七転八起」の研究所生活でした。ここでの出会いを大切に今後の心の支えとしていきたいと思います。

最後になりましたが、このような研修の機会を与えて下さった関係各位の方々に感謝申し上げます。とりわけ、いつもそばにいて私たちを励まして下さった、比嘉所長をはじめ、糸満、賀数両主事には、心より深く感謝申し上げます。

島尻教育研究所の一日

豊見城村立豊見城小学校教諭　比嘉史江

「おはようございます。」という元気のよいあいさつをかわす声が聞こえる。時刻は８時15分。外に出ると真っ青な青空に浮かぶもくもくとした入道雲、ひっきりなしに鳴いているせみの声、そして射すような日差し。早朝とはいえ、夏の真っ盛りである。竹ぼうきを片手に外の清掃が行われる。日差しを避けるため、麦わらぼうしをかぶる人もいる。時には主事の先生方と、そして同じ研究員どうしでほうきを動かしながらのおしゃべりを交えて。時には大きな笑い声。また時にはひたすら黙々と手を動かすのみ……15分という短い時間だが、終えると汗びっしょりである。朝のさわやかな汗。建物の中に入ると廊下も研究室もきれいになっている。一通り清掃を終えると研究室の中は日直の用意してくれたコーヒーのにおいがただよっている。こうして研究所の一日が始まる。

８時40分からは、所長、主事を交えてのミーティングである。日直の司会でミーティングが始まると緊張感がはしり、心がぴしっと引き締まる。ミーティングでは日程の確認、諸連絡にとどまらず、教育、政治、歴史などに話が広がり時の経つのを忘れてしまいそうになる。学校現場においては所長や主事の話を直接聞かせていただく機会はあまりないだけに貴重な時間である。かみしめて耳を傾ける。

水曜日には「３分間スピーチ」、金曜日には「大切な話」が行われる。「３分間スピーチ」では、研究員一人一人が日ごろ思っていることや体験したことなどを聞き、お互いの発表力を高めるとともに見聞を広める。教育に限られた話題だけではないので、視野が広がっていくよい機会であった。「大切な話」では、外山滋比古氏の著書「学校でできることできないこと」の中から話題を一つ選択し、所長、主事を含め、それについての意見をお互いに述べあうことにより、いろいろな角度から物事を考えることができた。

ミーティング終了後には、朝の歌声があり、みんなで心を一つにして大きな声で歌を歌った。カセットテープやＣＤの伴奏だけではなく、ギターでの生伴奏の時もあり、ほんとに楽しいひとときであった。

そしてその後は研修時間にあてられる。研究テーマに沿って研究を進める中で、それぞれの検証授業の際には研究員一人一人が仕事を分担して参観した。自分の研究だけでなく、他の研究員の考え方を聞くことによりその考え方の深さや見方に感動させられ、いろいろ学ばせていただいた。テーマ検討会、検証授業、中間検討会と研究を深めていくにあたって、研究の進め方などで、悩んだり、ゆき詰まったりしたこともあった。そんなときは、比嘉恒雄所長、糸満旦男主任主事、賀数昌治主事の３人の先生方や研究員のみんなから温かい励ましの言葉や適切なアドバイスをいただき大いに勇気づけられ、今日までやってこれたような気がする。こうして研究報告書をまとめていくかたわら、所内講話や所外研修も行われるという忙しい毎日ではあったが、充実した時が流れていった。

また、もくもくと机に向かい、研究を進めていくだけでなく、研究所のみんなとのたわいない会話の中からも人間らしく生きていくことのきっかけをつかませていただいたことに心から感謝している。

この長いようで短かった半年間、学校現場では経験のできない数多くのことを学ばせていただき、とても有意義であったように思う。

このような機会を私たちに与えて下さった関係者の方々に感謝するとともにこの半年間で得たことを実践に少しでも生かせていけたらと思う。

自分自身を見つめ直す

—「3分間スピーチ」「大切な話」—

南風原町立津嘉山小学校教諭　糸数昌子

緊張と不安の中でスタートした研究所生活。長いだろうと思っていた6ケ月も、あっという間に過ぎてしまいました。何をどのように進めていけばよいのかも分からないままの出発でしたが、迷い、悩み、落ち込みながらもまわりの人たちに支えられて何とか研究報告書を作成することができました。

この半年間で、多くの人たちとの出会い、所内研修、所外研修を通していろいろなことを学び、これまでの自分自身を見つめ直すよい機会となりました。

所内研修の中で、私にとって一番の成果はパソコンが打てるようになったことだと思います。これまで、時間がないからとつい逃げ腰になっていましたが、必要に迫られて、指導主事や研究員に教えてもらいながら練習することができました。何事もやる気さえあればできるようになることを体験を通して学びました。パソコンに取り組めたのも研究所に入所したおかげだと感謝しております。

また、たくさん学んだ研修の中で有意義であったものとして「3分間スピーチ」と「大切な話」があげられます。

《3分間スピーチ》

毎週水曜日の朝、ミーティングの後に行われました。担当になった研究員が各自テーマを決めて切り出し、他の研究員や両指導主事は意見や感想を出し合い全員で話し合いました。そして、最後は所長の総評で締めくくられました。内容は、趣味の話、家庭や地域の話題の中から関心のあることや話し合いたいこと、人生のこと、調べたものの紹介などと幅広い範囲にわたって提案がなされました。

主事から配られた「話し方」の資料を参考にして、まず話の骨組みを考え、相手に分かるように自分の話したいことをまとめ、それを3分間で話すことは簡単そうでなかなか難しいことでした。話したいことの半分も済まないうちに時間がきてしまったり、あまり簡潔に話しすぎて3分もたたないうちに終わってしまったりと、初めの頃はなかなかうまくいかないことも多かったものです。後半になると、ずいぶん起承転結がはっきりした文を話せるようになったと思います。他の研究員の話のまとめ方や話し方を聞くことも、その人柄が感じられ、学ぶことがたくんさんありました。

《大切な話》

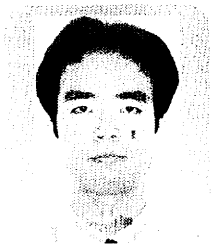
「大切な話」は、毎週金曜日の朝、外山滋比古氏の「学校で出来ること出来ないこと」の小冊子の中から題材を見つけだし、全員で話し合いをしました。進め方は、3分間スピーチと同じように、7名の研究員が輪番制で提案者となり、98項目の中から選んだ題材についての感想などを述べた後、他の研究員、両指導主事からの意見や考えなどを聞き、話し合った後、最後に所長の総評をいただくという方法でした。

「歩くこと」からスタートし、「危険教育」「夏休み」「知識と現実」などたくさんの題材が提議され話し合いが行われました。教師のあり方や家庭のあり方、親のあり方などをいろいろな立場から見たり考えたりすることが出来ました。一つの題材からでも、一人ひとりの受けとめ方や考え方が違うので、勉強になりました。

この二つの研修の成果は、要点を押さえて話をすることや、話を聞いての意見の述べ方、限られた時間を有効に使うことなど教師として一番身につけなければならない話し方を身につけたことだと思います。そして、最後の所長による経験豊かなお話は、みんなの意見をまとめながらも奥が深いものがあり、いつも感激して聞いたものです。

最後になりましたが、研修の機会を与え、支えて下さいました皆様に感謝いたします。

この半年間で学んだことを心に留め、実践で生かせるように今後も努力していきたいと思います。



お世話になった方々へ

南風原町立翔南小学校教諭　島袋　健

早いもので、島尻教育研究所に入所して半年が過ぎ、私たちの研修生活にもピリオドを打たなければならなくなりました。私たちの研修は、日々の教育実践の中で見いだした課題や問題をテーマに、それを研究し、まとめ、最終的には報告書という形にするというのが大まかな内容です。

その報告書を完成させるにあたり、多くの方々にお世話になりました。特に指導講師の先生には、お世話になりました。何も知らない私たちのために、専門的な立場からいろいろと教えてくださいました。指導講師検討会のときも、親身になって、適切な指摘やアドバイスをしてくださいました。時には、世間話をしたり、お互いの教育観を話し合ったりと、なにげない話の中からでも多くの事を学ぶことができました。おかげで、満足のいく報告書を完成させることができました。

指導講師の先生方以外にも、お世話になった方はたくさんおります。所長を始め主事の先生方は、私たちが研究所で生活するための道標になってくださいました。研究で行き詰まったら、励ましによって私たちに方向性を示してくださいました。検討会のときには、厳しく追求されたりすることもあり、自分の能力のなさを思い知らされることもありました。私たちの可能性を信じての叱咤激励を本当にありがとうございました。

私たちの心の糧になるお話しもたくさん聞くことができました。各研究員の指導講師の先生方や、南部広域行政組合の職員の方、それに島尻管内の校長先生による講話や、元世界チャンピオンの平仲信明氏の講演など、学校現場にいては絶対に聞くことができないような話をたくさん聞くことができました。教育に関する話だけではなく、いろいろな分野の話を聞くことができ、視野も広めることができました。これも研究所での研修の大きな成果だと思います。

この半年間のあいだに、自分の研究を進め、多くの人々に出会い、多くのすばらしい話を聞き、私にとってかけがえのない財産を得ることができました。学校現場に戻ったら、この財産を少しずつでも、私の回りにいるすべての人々に還元すべく、頑張って行きたいと思います。

皆様、本当にありがとうございました。

お世話になったすべての人へ感謝の気持ちを込めて……

研究の入り口として

— 研究を終えて —

玉城村立船越小学校教諭　　友　寄　弥栄子

私たちは、日々の教育実践の中で、自分の実践に疑問をいだいたり、行き詰まりを感じたり、授業を改善する糸口を見つけたいと思ったりします。しかし、学校現場では、それを解決する時間をつくり出すのは難しいものです。私も自分の実践に漠然とした疑問を感じている時に幸い研究の機会を得ることができました。

学校現場とは、まるで違うであろう研究所の生活を楽しみにしながら４月を迎えました。新学期の慌ただしさや子供達とのぶつかりあいの生活を思い浮かべながら、ゆったりとした静かな研究所の生活が始まりました。

私は、「研究」と名の付くものに一人で専念するのは初めてです。研究とは、全く自由で主体的なものです。それ故に何をどう進めたらいいのか戸惑いがありました。研究所へは、ある課題を持って来たつもりではありましたが、それを研究テーマにし、研究テーマ設定の理由として明文化するのはなかなか難しく、最初にぶつかった壁でした。研究の仮説を立てると、検証授業に向けての教材研究と授業実践があります。その後は、研究レポートの中間検討会、報告書検討会及び期間５回の指導講師との検討会を経て研究報告書が完成します。レポート検討会に向けて数冊の参考文献を何度も読み返し、形あるものにしていくのは大変なことでした。検討会では、一人ひとりのレポートを所長、両主事、研究員全体で多面的に検討していきます。その度に疑問点や不十分な点が指摘され、修正を重ねていきました。しかし何度書き直しても満足のいくレポートにならず、研究の厳しさを知りました。レポートを前にして一人奮闘しているとき、「辿る道のり厳しけど　友の情けに涙して　明日に明かり灯さんと　語る仲間の声やさし」という、研究所逍遥歌２番の歌詞がぐっと身近に感じられ心に沁みていきました。

研究内容に関して指導講師の親身で丁寧な指導・助言をいただきました。指導講師との検討会後は、いつも目の前の霧が晴れていくように大きな安心感を得ました。

このように数回の検討会を重ね、何度も見直していくうちに、内容の不明瞭さや表現の重複等が徐々に改善されていきました。また研究では、研究テーマ、研究仮説、研究内容、実践に整合性を持たせて輪を展開していくことが基本であり大切であることを確認しました。

この厳しい研究の中でもほっと一息つける場がありました。南部振興会、広域行政組合の皆さんとの交流レク大会、所長宅の趣のある広い庭での月見会、大きな冬瓜（所長農園産）の収穫を祝ってソーキ汁の会食、休憩時間は、マンゴに舌包みをうちながら雑談に興じました。これらは、机に向かい頭を悩ます日々から心身を解放し、リフレッシュさせてくれました。研究の厳しさ、楽しさ、気分転換の集いなど、どれも研究所だからこそ得られる貴重な体験となっています。

私たちは、比嘉所長はじめ糸満、賀数両主事、指導講師の先生方、所属校の先生方、講話をしてくださった先生方、そして共に励ましあった研究員の仲間、大勢の方々の温かく厳しい指導に支えられ研究を進めることができました。ご指導くださった先生方、また、このすばらしい研究の機会を与えてくださいました南部広域行政組合に、心より感謝とお礼を申し上げます。研究所で学んだことを研究の入り口として捉え、今後も研究を継続し深めて子供たちに還元できるよう努めていきたいと思います。

教育講演会要旨

「目標をもって頑張ればできる」

平成10年6月2日（火）

元ＷＢＡ世界Ｊ・ウェルター級チャンピオン　平仲信明

私の生い立ち

自分の小さいときのことから話したい。もともとケンカが好きで、ケンカばかりしていた。高校では野球部に入っていたが、先輩が後輩をいじめていたので、その先輩をぶん殴ってしまい、校長先生から野球部を辞めてくれと言われてやめました。その後ボクシング部に入った。高校のインターハイでデビュー戦をして、ぼろぼろに負けた。ボクシングのチャンピオンにはケンカしたら勝てる自信はあるが、ボクシングでは勝てない。悔しい思いをしているとある人にこう誉められた。「平仲君、これだけできれば大したものだよ。」そこでどうしたら強くなれるかと聞いたところ、「相手に打たれる前に打てばいいんだよ。」と指導を受けた。自分は物事をいい方に単純に考えていたので、それだけを一生懸命練習した。ぼくはプライドよりどうすれば強くなるかを考えた。それでインターハイに出て、全部勝った。オリンピックにも出て勝っていった。

出会い

私は畜産関係の大学へ進み、卒業後は仕事をしながらチャンピオンを目指した。

最近感じることは出会いのことです。ほんとに絵に描いたような出会いがありました。高校の時、韓国での親善試合があって、沖縄からも僕を入れて高校生が何名か参加しました。途中で、会長をしていた宮城仁四郎さんの荷物を持ったんです。当時82歳でした。人の練習着も持っていたんですが、ほんとに素直な気持ちで会長の鞄を持ちました。帰る前に免税店でおみやげのウイスキーを買いました。ところが、それが税関で税金を払いなさいと言われたとき、会長が助けて税金を払ってくれたんです。そのお礼をいわないといけないと思い、母と相談して、家が農家なので家で作った野菜を持っていくことになった。那覇の自宅を訪ねると、宮城会長は私を覚えていなかったが、わけを説明し、お礼を言って帰った。野菜をお礼に持ってきた人は初めてだと言われ、またその野菜がおいしかったので私のことを覚えてくれたようです。それ以後、いろいろとよくしてもらいました。

プロにいくかどうか迷って相談したとき、ほかのひとは、やめた方がいいと言ったが、会長は、「なんでもやってみたらいいよ、ダメでもともと。」「選択するのは自分だ。生きる道は自分で決めなさい。」といわれた。他人はいろいろアドバイスはするが最後に決めるのは自分だと言うことを教えてもらった。大学に通っている頃、訪ねていくとお金に困ってないかと聞かれ、家の掃除をさせたり、買い物を手伝ったりさせてこずかいをくれた。

人間は一生懸命やると気に入ってもらえる。メダルを取ったりするとお祝いもしてもらえた。人間は口に出すと行動しなければいけない。言ったら結果を出さないと世の中は認めてくれな

いと感じた。会長には、人より先に行動し背中を見せると人はついてくると教えられた。

今後の人生の生き方について会長から次のように言われた。「ボクシングジムを作るのは簡単だよ、だがそれを維持していくのは大変だ。人を教育するのは金がかかる。誰も助けてはくれない、これからは自分の力でやらないとダメだよ。人というのは、親が何回言っても聞かない子でも、チャンピオンの貴方が一回言えば聞くものだ。これからは教育者としてボクシングの指導を通して生きなさい。チャンピオンとして、それを生かした生き方をしなさい。」

ボクシングスクールジムを通して思うこと

現在私は、株式会社平仲の中で、ボクシング事業部、環境事業部、芸能部をおいて活動している。私ができるのは、ボクシングを通した教育しかできないと思っている。私には、ボクシングをするための会社です。うちのジムには問題児が多く集まってくると言われる。髪の毛や眉毛も剃ったり染めたりした子どもがボクシングを習いにくる。子ども達は寮に住み込んでいる。彼らを毎朝6時に起こして、走って、8時頃会社に行き、1日の報告を受けて、現場にでる。夕方5時から練習して、9時頃ご飯を食べて寝る。少年院と変わらないよと言っている。うちのジムにはいろんな人が来て子どもたちを励ましてくれる。人間は励まされると元気が出てくる。ＴＶにでる「ビートたけし」がほめ殺しと言う言葉をよく使っていた頃、1人の学校へ行かなくなった子が来た。その子は髪の毛を染めたり、頭にそり込みを入れたりしていた。ふつうだったらやめなさいと言うが私は逆に「かっこいいな。」とほめた。もっと剃ったらいいよとか他の色にしたらどうかと勧めたりした。彼らは友達がみんな同じような格好をしていて、その中で目立とうとするからもっとひどくなって行くんです。ほんとは心が弱い子なんだと思っています。はじめはボクシングは下手なんだが、ほめると一生懸命やるようになる。そうするとだんだん上手になってくる。すると、ボクシングが好きでジムに通ってくる普通の子と友達になってくる。その中で自分の姿が恥ずかしくなってくるんです。ジムに入ってくるときに帽子をかぶってくるようになる。友達はみんな同じ格好をしているので気づかないが、ジムに来ると自分の姿がおかしいことに気づいてくる。そんな時、彼らとなぜ学校へ行かないかとかなぜ自分が彼らに注意をしないのかとかの話しをする。しばらくするといつの間にか学校へ行って勉強するようになった。ボクシングも楽しい、学校も楽しいと言えるようになるんです。

この子達は、なぜ殴られたのかなぜ怒られるのか分からない。先生の機嫌が悪いから殴られたとしか考えない子もいる。ジムを作ったとき、どんなに技術があっても、挨拶・マナーがないとだめだと思った。仕事はきれいに真面目にやれよと言ってあるから一生懸命やる。現場でも挨拶をやるから仕事も入ってくる。挨拶をやれば返事が返ってくるから嬉しくなる。こういう教育は年齢が、小さければ小さいほど大事だ。そのような教育をするのは家庭・親だと思う。

自分が一番ありがたいなと思ったのはいろんな出会いがあったことだ。小さい頃からいろんなことを教えてもらいました。でも教えてもらったことをすべて出しきれる人は少ないと思う。何でもいいから頑張ってみればいい。社長になりたかったら、大社長とつきあってみるといい。自分の器を大きく作るのは周囲の環境です

私は、先生方が見本を見せていけば子どもは付いていくと思う。〔文責　島尻教育研究所〕

島尻教育研究所逍遥歌

島尻教育研究所逍遥歌

作詞 宮城恒彦
作曲 親泊明美

一

報得の流れ ゆるやかに
朝陽に映ゆる きびの原
指導の道を 究めんと
集いしわれら 意気高し

二

辿る道程 厳しけど
友の情に 涙して
明日に灯 ともさんと
語る仲間の 声やさし

三

遥かに望む 八重瀬岳
うつろふ雲は 綾なして
ゆぐらへ急ぐ 群れ鳥に
光ほのかな 宵の星

一九九七・五月十三日

東雲

所報「東雲」（しののめ）の意味するもの

「春は曙。やうやう白くなりゆく、山ぎは少し明かりて、紫立ちたる雲の細くたなびきたる」と、枕草子の巻頭に出てくる雲が東雲（しののめ）である。みるみる東の空は白んで明け方を迎える。

この名称は、本研究所を巣立ってゆく教師達の今後の活躍を期待していることと２１世紀に向けて、夜明けのシンボルである東雲のような役目を果たす研究所とを意味している。なお、「東」の文字には所在地である東風平にも掛けている。

南部広域行政組合 島尻教育研究所

〒901-0401　沖縄県島尻郡東風平町字東風平965番地

ＴＥＬ　０９８－９９８－９５６０

ＦＡＸ　０９８－９９８－９４２０